



# つしよい!

いちのせき  
協働ニュース

2015年9月

vol.6



## いわて松川やくにたつ会

会長：永澤 源治郎

問い合わせ先

電話：0191-48-2410 (松川市民センター)

### 「いわて松川やくにたつ会」設立総会

「いわて松川やくにたつ会」設立総会が平成27年3月26日、松川公民館（現松川市民センター）で開かれ、提案した規約や事業計画などがすべて承認され、東山地域では第1号となる地域協働体（会長 永澤源治郎さん）が誕生しました。

松川地区の協働のまちづくりの取り組みは、平成26年6月から本格的に動き出し、懇談会などを通じて「協働のまちづくり」に対する理解を深め、同年12月1日には、「いわて松川やくにたつ会設立準備会」を立ち上げました。その後、3つの部会で規約や事業など、設立総会に向けた内容の検討を重ね、地域協働体の設立を迎えました。

今年の6月18日には「いわて松川やくにたつ会」第1回委員会が開かれ、秋田県横手市方面への視察研修、近隣市長を招いての講演会などを開催することを決定しました。

「いわて松川やくにたつ会」は、その名前のとおり、地域の皆さんの「やくにたつ」事業を進めていきます。

### 先進地視察研修 in 秋田

いわて松川やくにたつ会としての初めての事業である先進地視察研修が7月18日、秋田県横手市山内（さんない）地域で行われ、委員18名がまちづくり事業について学びました。

平成17年に山内村を含む8市町村が合併して発足した横手市。合併時の人口は10万人を超え、現在は県内第2の人口を有する都市になっています。その中の人口約3,500人の山内地域では4つの地区会議が設置されていますが、今回の研修では、その内の1つである山内北地区に伺いました。

山内北地区では、豊かな山の恵みを活かして「わらび園」を開園。平成19年度からわらび園の造成・整備に取り組んでいます。また、平泉町と横手市を結んだとされる「秀衡街道」を保存するための花壇整備や草刈整備等の環境整備事業なども行っています。

研修を終えた委員たちは、地域の特徴を活かした事業や住民の自主的で積極的な活動に関心と共感を持ち、いわて松川やくにたつ会の将来を考えていました。



### 地域協働推進員の紹介

今年5月から松川市民センターで松川地区の地域づくりを支援している地域協働推進員の永澤恵美さんを紹介합니다。恵美さんは地元松川出身ということもあり、地域の皆さんとのコミュニケーションはばっちり。7月からはいわて松川やくにたつ会の広報「まづが便利」を発行し、活動の様子や松川の歴史などを伝えています。

#### 【地域協働推進員から一言】

私は地域の皆さまとの会話を大事にしています。会話を楽しみながらも、住みよいまちづくりのため、「やくにたつ」協働体となるためのヒントを探しています。

いつでも気軽にお立ち寄りください。頑張りますのでよろしくお願いいたします。



## 各地域の協働の取り組み



# 山目地区まちづくり協議会

会長：千葉 昭彦

問い合わせ先  
電話：0191-21-2104  
(山目市民センター)



平成27年度総会 (H27.5.24)

一関地域に今年2月26日に発足した山目地区まちづくり協議会（以下「協議会」）を紹介します。

### 設立の経緯

山目地区の協働の取り組みは、平成24年度に区長会でこれからの地域づくりなどについて懇談したのが始まりで、25年には各団体と地域協働の議論を重ね、同年12月26日に「山目地区まちづくり協議会（仮称）設立準備会」（以下「準備会」）を発足しました。その後、協働体設立に向けて、準備会で8回にわたり検討し、その間に地域住民との懇談会を経て、平成27年2月26日の設立総会において協議会が設立しました。

協議会の目的は、住民が協力して明るく豊かな地域づくりを推進すると共に、行政も含めた多様な団体等との協働によるまちづくりを広く展開し、地区の発展に寄与することです。この目的の達成に向け、現在、まちづくり計画の策定に取り組んでおります。

### まちづくり計画の策定に向けて

計画の策定にあたり、山目地区の全世帯及び山目・赤荻小学校の5、6年生並びに磐井中学校の2年生を対象としたアンケートを実施しています。ここでは、地域に期待すること、地域の課題、アイデアなどについて、様々な意見が出され、現在取りまとめをしています。

また、9月から10月にかけて、地区民等を対象にまちづくり懇談会をワークショップ形式で開催し、10年後の山目の姿について意見交換を行います。これらの結果を踏まえ、山目地区の将来像とそれに向けた取り組みの大枠を定めるまちづくり計画を取りまとめることとしています。

### 地域協働推進員の紹介

山目地区の地域協働推進員、鈴木五郎さんを紹介します。鈴木さんは山目に在住、民生委員をはじめ、地域の様々なイベント等にも関わり、地域活動に貢献してきた方です。これまでの地域とのつながりを活かして協議会の運営やまちづくり計画の策定に活躍しています。

### 【鈴木五郎さんからひとこと】

山目地区の地域協働推進員として、5月1日から勤務している鈴木五郎と申します。この4月から公民館は市民センターとなり、これまでのいきがづくりのほかに、地域づくりの拠点としての役割も担ってまいります。私も、及ばずながら少しでも皆さんのお役に立てればと考えております。よろしくお願いいたします。



## 各地域の協働の取り組み



# 涌津まちづくり協議会

会長：佐々木 康博

問い合わせ先  
電話：0191-82-4067  
(涌津市民センター)



「わくつ夏まつり」で金魚すくいを楽しむ子供たち (H27.8.9)

### 団体の 特徴

涌津まちづくり協議会は平成27年4月に発足しました。集落公民館長をはじめとした様々な活動を行う団体と住民が互いに協力し、行政と協働を図りながら、地域共通の課題解決に努めます。

### 4月23日地域協働体を設立

涌津地区では、地域づくりの進め方を一関市地域協働推進計画に掲げる「これまでの行政主導」から「地域住民と行政が連携する地域協働型」への転換を図るため、4月23日に「涌津まちづくり協議会」を設立し、新しい地域づくりの第一歩を踏み出しました。

設立までには、平成26年2月に「涌津地区協働のまちづくり学

習会」、同年5月に「まちづくり懇談会」を開催し、同年7月に同協議会設立準備会を立ち上げました。8回の準備会を重ねるとともに、準備会だよりの発行や全集落で懇談会を開催するなどして協働体設立の機運を高めました。

### わくつ夏まつりを開催

8月9日、市立涌津小学校グラウンドを会場に、いちのせき元気な地域づくり事業「わくつ夏まつり」を涌津市民センターと共催で開催しました。

この事業は、協働のまちづくりの推進と併せて市民センターの開設を記念し、多くの地区民が集い、交流を深めることを目的に開催したものです。

農産物等の展示販売、飲食コーナーなどの出店が並んだ会場では、演歌歌手による歌謡ショーをはじめ、カラオケ大会や子ども縁日が行われたほか、まつりのフィナーレでは花火が打ち上がると参加者から歓声が上がると、訪れた地区民は夏まつりを大いに楽しみました。

### まちづくり協議会のこれから

6月30日に市に地域協働体の登録の届出をしました。今後は、地域づくり計画の策定方針を定め、「地域づくり計画」の策定に向け、活動を進めます。計画には、住民アンケートやワークショップなどを通じて、地域課題の洗い出しを行い、その解決の方向性や、涌津地区の将来像（ビジョン）などをまとめていく予定です。

## 各地域の協働の取り組み



### 結いネット そげい

会長：足利 徳夫

問い合わせ先  
電話:0191-75-2244  
(首慶市民センター)



計画書「みんなで一緒に地域づくり」の策定を勝部市長に報告する「結いネット そげい」役員と理事の皆さん

#### 団体の特徴

地域協働体設立:平成26年7月  
地域づくり計画策定:平成27年5月  
世帯数:381戸、人口:1242人、行政区数:8区  
地域:恵まれた自然環境で農業を中心に営む地域

#### 支え助け合う『結いっこ』の精神脈々と

首慶地区は、古くから互いに支え助け合う『結いっこ』『結い』の精神で地域の皆さんが協力しながら暮らしてきました。協働体の名称も地域に流れるお互いさまの気持ちを表したものです。

#### 心も景色も美しく、住み続けたい私たちの首慶

小学5年生以上の全住民にアンケート調査(回答率81%)を実施することで、幅広い年齢層からの意見を集約し、地域課題を掘り起す作業に取り組みました。

将来ビジョンは『心も景色も美しく、住み続けたい私たちの首慶』と設定しました。

#### 風土と資源を活かす地域づくりなど4つの目標

計画では、『高齢者や障がい者が安心していきいきと暮らせる地域づくり』『子どもたちが明るく成長し、若者による活気ある地域づくり』『みんなで支え合い、安全・安心な地域づくり』『首慶の風土と資源を活かした地域づくり』の4つの重点目標を定めました。

現在、7つのチームで課題解決に向けた検討を進めています。

#### できることから始めようと手始めは夏祭り復活

『結いネット そげい』の初事業として、復活を求める声に応え8月に13年ぶりとなる首慶地区の夏祭りを開催。地域の皆さんが協力して催した企画に大勢の皆さんが楽しみました。

今後は、地域をPRする看板製作や高齢者の交通手段の確保、特産品の開発検討などに取り組んでいきます。

ひとり一人が地域づくりの宝を生かし、地域の一員としての実感や達成感が持てるオンリーワン「そげいスタイル」がスタートしています。

## 各地域の協働の取り組み



### 奥玉振興協議会

会長：藤原 幸夫

問い合わせ先  
電話:0191-56-2950  
(奥玉市民センター)



昨年のとびがもり水車音楽祭

#### 団体の特徴

奥玉振興協議会は昭和61年1月に発足し、地域の自治会長や団体の代表ら144人で構成しており、構成団体相互の理解と親睦を図り、地域住民自ら話し合い、明るく豊かな地区民の生活を確立し、地域の発展に寄与することを目的としています。「奥玉ふるさとまつり」や「とびがもり水車音楽祭」など、自分たちの手で地域を盛り上げています。平成25年6月に地域協働体として届け出ました。

#### 奥玉振興協議会のこれまでの活動

協議会では、奥玉地域の活性化と住民の絆を強くしようと、平

成24年度に「奥玉音頭」を制作しました。奥玉ふるさとまつりでは地域住民総参加で踊られるほか、よさこいバージョンも作られ、奥玉小学校児童により、運動会や千歳夏祭りで踊られるようになりました。

3月8日に日本総合研究所調査部の藻谷浩介主席研究員を講師に迎えての講演会を開催しました。「里山資本主義と奥玉の未来」をテーマに人口減社会の中で生き残るための地域づくりについてお話をいただきました。いかにして年代のバランスの取れた人口を維持していくか、人を呼びこみ地域として生き残るか、参加者はこれからの地域づくりにヒントをいただきました。

#### 奥玉らしい地域づくりにむけて

協議会では、この1年を地域づくり計画策定に向けた準備期間として「協働のまちづくり推進」研修計画により、事業を進めています。これまで、講演会やワークショップを開催し、協議会の現状と課題を把握し、進むべき方向を話し合いました。今後も、講演会や研修視察などにより地域づくりへの理解をさらに深め、奥玉らしい地域づくりを進めていきます。



多くの地域住民が参加した奥玉地域づくり講演会



## 藤沢町住民自治協議会

会長：千田 博

問い合わせ先

電話：0191-63-5515

(藤沢市民センター)



協働のまちづくり会議において市に提言を行う

本協議会では、今年度から、藤沢市民センター内に事務室を開所し、2名の職員が着任しました。現在、平成26年度に策定した各地区の地域づくり計画の推進に向けて、地域内の8つの支部と事務局との懇談会を実施しています。計画をどのように進めていくか、内容を見直ししながらみんなで話し合っていくことが地域づくりの出発点になります。

また、本協議会に総務、産業、教育民生の3つの事業部会を設け、3人の副会長が部会長を務めています。

(各部会の取り組み内容)

- 総務部会…市民センターの指定管理について、地域づくり計画等の推進体制について
- 産業部会…学び舎活用案について
- 教育民生部会…バス交通対策、高齢化社会への対応について

### 団体の特徴

本協議会は、藤沢町自治会協議会が核となり、地域内の19団体を特別会員として、昨年の11月6日に地域協働体である藤沢町住民自治協議会を設立しました。地域づくり計画書をベースに協働のまちづくりを展開し、「人と人が結び合い、絆あふれる藤沢」の具現化を目指していきます。

本協議会では、今年度の主な事業として、春季・秋季クリーンアップ一斉清掃、ビューティフル藤沢整備事業(市花いっぱいコンクールに参加)、リサイクル集団回収(年3回)、自治会長等視察研修(8月29日~30日山形県内)、地域づくりフォーラム・40周年記念事業(平成28年2月7日)等を予定しています。

みなさんどうぞお気軽にお立ち寄りください。



# いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信によりアイデアと出会いの機会を創ります

これまで地域づくりの背景についてお伝えしてきましたが、これからの地域づくりの仕組みについてお伝えします。

### 地域づくり計画とは

少子高齢化、人口減少社会の中、地域運営がちょっぴり困難になりつつある今、地域の連携範囲を拡大し、地域運営をしやすくするための仕組みとして地域協働体の設立が進んでいます。地域協働体は、地域運営をするための土台であり、運営のしやすさを求めるためには、地域全体を見直し、課題や必要性等を整理整頓し、地域全体で総合的に運営できるような方針をまとめることが必要で、そのまとめたものが地域づくり計画です。

### なぜ地域づくり計画が必要なのか?

これまでの地域における行事や事業は、団体等がそれぞれの目的に基づいて、それぞれで行っていました。故に、連携がとれず、似たようなものが複数あったり、たどり着く目標が、それぞれだったり。また、地域が元気になるように、何かしなければいけない、ヤラネバという焦りもあり、目標が定まらず、たどり着く未来は、成り行きという結末に。

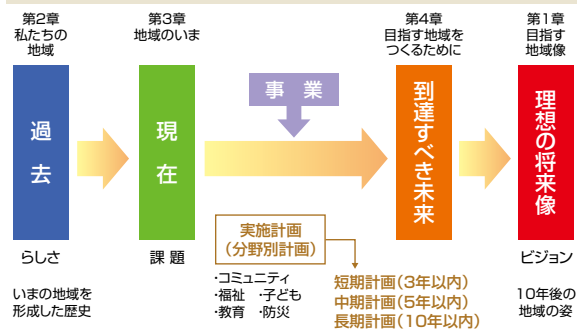
人もお金も時間も限りある資源です。これからは、地域一丸となり、ありがたい地域(目標)を定め、地域の知恵、人材、資金など多様な資源を地域内で循環させる仕組みを構築すること、すなわち、地域で生活する住民が「地域を知る」「地域を創る」「地域を育む」ために、地域づくり計画が必要なのです。

地域づくり計画の内容については、策定する地域によって異なりますが、絶対に盛り込む内容としては、①将来像(目指すべき地域の姿)②現状分析(地域の成り立ち)③分野ごとに取り組む項目の大きく3つです。

一関市の協働は、継続的な話し合いであり、地域づくり計画を策定するために、地域のみんなが集まり、話し合いを重ね、知恵を出し合うことこそが、まさに協働のまちづくりにつながります。

今回は、地域づくり計画の作り方手順についてお伝えします。

### 地域づくり計画がすべての基本になる!



ちい き ひと 地域 そだて 人 そだて 地域づくりをサポートしています <http://www.center-i.org/>

#### いちのせき市民活動センター

一関市大町4-29 ののほなプラザ4階  
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

#### いちのせき市民活動センターせんまやサテライト

一関市千厩町千厩字町149  
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

